

## 第15回西播磨和牛合同畜産共進会を開催

宍粟市和牛部会と佐用郡和牛改良組合、兵庫西和牛生産振興協議会で構成する西播磨和牛生産連絡協議会は9月13日、JA兵庫西しそ種子センター（宍粟市山崎町）で第15回西播磨和牛合同畜産共進会を開きました。共進会では、開催地である宍粟市のほか、佐用町、姫路市、たつの市、赤穂市など西播地区の畜産農家が丹精込めて育てた但馬牛35頭（種牛の部11頭、肉牛の部11頭、子牛の部13頭）を審査。全国和牛登録協会兵庫県支部や兵庫県農林水産技術総合センターなどの審査員が、発育状況や栄養状態、資質などを確認しました。

審査の結果、肉牛の部門では、肩や腰、ももの張りが出品牛の中で最も秀でていたと、谷口隆博さんの「梅丸」号（宍粟市）が最優秀賞を受賞。また、種牛の部では、岸本章弘さんの「ゆうき」号（宍粟市）が最優秀賞を、子牛の部門では森岡信雄さんの「ひさこ」号（宍粟市）と安岡林さんの「照芳」号（佐用町）がそれぞれ1等を受賞しました。審査員からは、「仕上がりが状態の良い牛が多く、西播地区の技術向上を感じられた」と講評がありました。

今回入賞した肉牛部門6頭と種牛部門5頭は、10月24日に養父市但馬家畜市場で開催される、「第101回兵庫県畜産共進会」に西播地区の代表として出品されました。



### 農作業ひとくちメモ

#### 石灰の施し方と注意点

日本は降雨量が多く、雨などで土中のアルカリ分が流されて酸性土壌になり、多くの作物は生育が悪くなります。定植前の土づくりで適量の石灰を混ぜ合わせ、土壌酸度を矯正することが大切です。

石灰は窒素肥料と一緒に施すと、窒素分がガス化して土から抜けて肥料の効果が失われてしまいます。石灰を先に施して荒起こしを済ませ、一定期間おいてから（夏は1週間、春秋で10日から2週間）元肥や堆肥を施し、よく耕しましょう。未熟な堆肥や発酵の済んでいない有機肥料は土の中で発酵分解するので、完熟堆肥や化成肥料の使用をおすすめします。

